

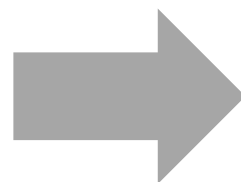
地震対策 – 発電所直下の内陸地殻内（大陸プレート内）で発生する地震 –



ワーキングの詳細
はこちらから

論点No.18

全国各地の活断層がないとされる場所でも大きな地震が発生している。発電所の直下には活断層がないとしているが、このような地震が発生しても安全性は維持されるのか。



第25回ワーキング
(2023.10.4) で議論

ワーキングチーム検証結果

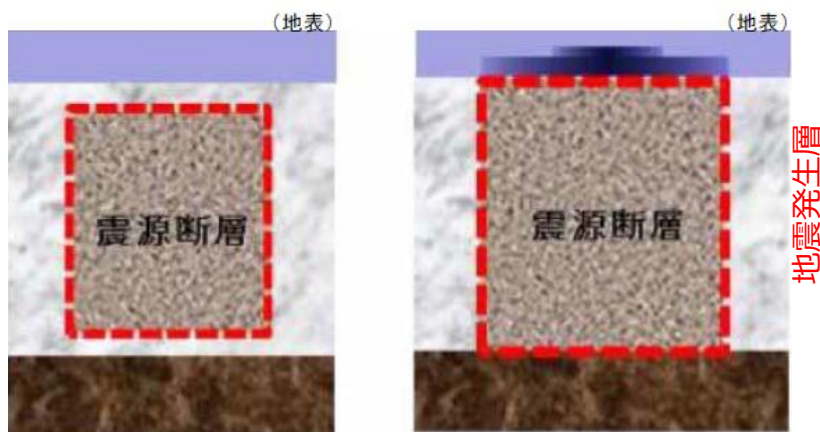
活断層がないとされる場所で起きる地震として、過去の同様の地震を基にマグニチュード7の地震を想定し、そのような地震が東海第二発電所の直下で発生しても安全性は維持されると評価されていることを確認

ワーキングチーム検証結果（抜粋）

○活断層がないとされる場所で発生する地震の評価

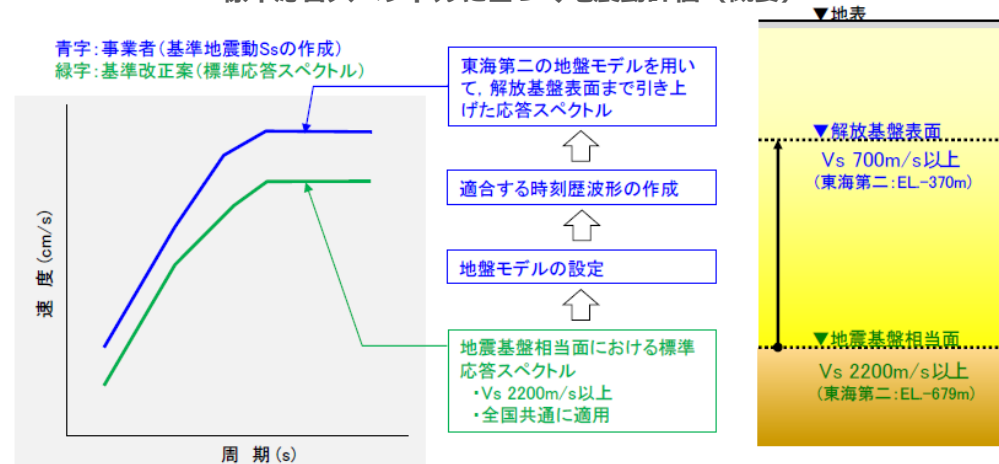
- 地震時の断層のずれが地震発生層の内部にとどまり、地表地震断層が出現しない可能性がある地震は、全国のどこでも発生する可能性がある。

地表地震断層が出現しない可能性がある地震



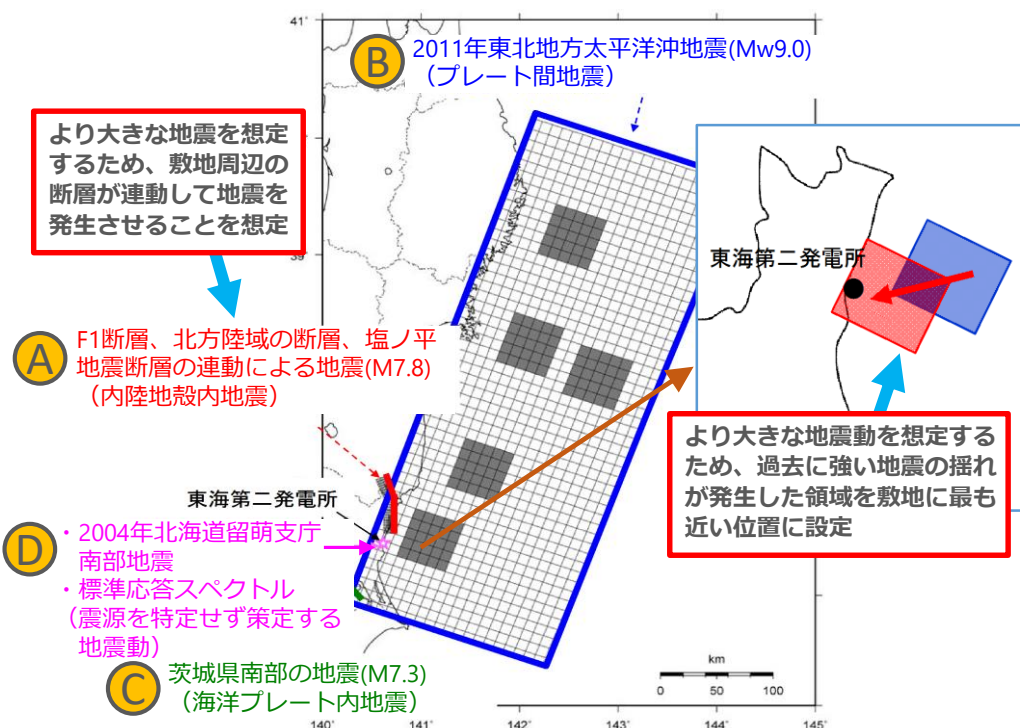
- 原子力規制委員会は、この「地表地震断層が出現しない可能性がある地震」について、全国各地の同様の地震の観測記録を収集・分析し、統計的に処理を行うことによって全国標準的な応答スペクトル（標準応答スペクトル）を策定し、各発電所に対して検討を行うことを要求
- 東海第二発電所においても、この標準応答スペクトルに基づきマグニチュード7.0の地震を想定した評価を行い、施設の安全性に影響を与えないことを確認

標準応答スペクトルに基づく地震動評価（概要）

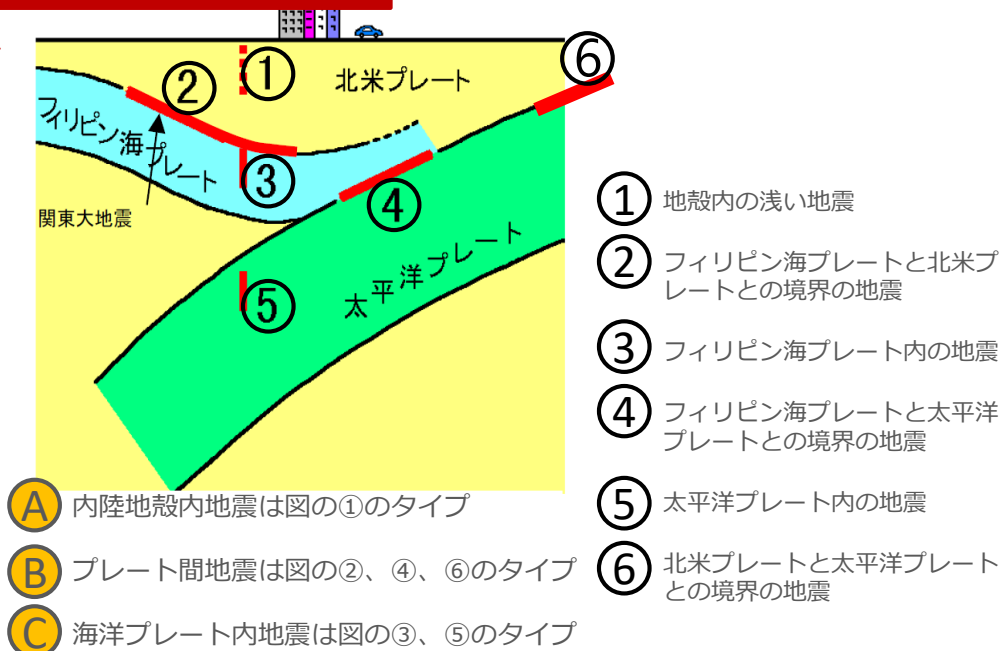


東海第二発電所の敷地に大きな影響を与える地震（検討用地震） 及び耐震設計の基準となる地震の揺れ（基準地震動）

検討用地震



地震発生タイプ



基準地震動

地震発生様式	検討用地震
敷地ごとに震源を特定して策定する地震動	A F1断層、北方陸域の断層、塩ノ平地震断層の連動による地震 (M7.8) B 2011年東北地方太平洋沖地震 (Mw9.0) C 茨城県南部の地震 (M7.3)
震源を特定せず策定する地震動	D 2004年北海道留萌支庁南部地震 標準応答スペクトル

評価地震の種別	最大値 (ガル)
A 内陸地殻内地震 (4波)	9 0 3
B プレート間地震 (2波)	1 0 0 9
D 震源を特定せず策定する地震動 (2波)	8 2 9
応答スペクトル手法 (1波)	8 7 0

2011年時点の
基準地震動
600ガル

C * 海洋プレート内地震は他の基準地震動に包括される